

第 36 期第 10 回研究会(理論研究部会「関西メディアフォーラム」との共催)

テーマ「90 年代以降における保守言説のメディア文化  
～倉橋耕平『歴史修正主義とサブカルチャー』書評会として～」

日時:2018 年 7 月 14 日(土) 14:00-17:00

場所:関西大学千里山キャンパス第 3 学舎(社会学部)A305 教室

<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/access.html#senri>

登壇者：伊藤 公雄（京都産業大学）

飯田 豊（立命館大学）

倉橋 耕平（関西大学、立命館大学ほか非常勤講師）

司 会：守 如子（関西大学）

企画の意図：

倉橋耕平会員の『歴史修正主義とサブカルチャー——90 年代保守言説のメディア文化』（青弓社、2018 年）は、1990 年代以降の保守言説がどのように伝播・普及していったかを明らかにしたものである。筆者は、歴史修正主義については、これまで「何が語られたか」を問題にする研究はあったが、「どこで語られたか」「どのような方法を用いて語られたか」という問題はほとんど見落とされてきたとし、メディア研究の立場からのアプローチを試みている。

本書では、ヘンリー・ジェンキンスの「コンバージェンス文化」概念に基づき、教育学と自己啓発メディアにおける「ディベート」の展開、保守論壇誌の読者コーナー、「慰安婦」問題を扱うマンガ、「慰安婦＝性奴隷」言説をめぐるメディア間の対立と、メディア横断的に分析が行われている。

本研究会では、本書の書評セッションという形で、現代日本社会の思想、メディア、文化の関連について、およびこれらの関連を追究する方法論について議論する。評者は、世代の異なる二人の社会学者が担当する。伊藤公雄会員は、ポピュラー文化、ジェンダー、イタリア近現代政治文化を研究対象とし、現代日本の政治文化にも常に関心を持ち続けている。飯田豊会員は、メディア論、メディア技術史、文化社会学を専門とし、メディア・イベントについても関心をもっている。

評者の報告を受けて、著者も交えてフロア全体で、今日的な問題について理解を深めるとともに、メディア研究の可能性と課題について考える機会としたい。

なお、本研究会は、関西地区で継続的に開催されている「関西メディアフォーラム」との共催として開催する。